

第三回 労働調査報告

一 富士紡押上工場の同盟罷業

富士瓦斯紡績會社押上工場に於ける紡織労働組合押上支部の同盟罷業は七月十四午前六時の作業交替期を以て勃發し同月二十七日に到り終熄せり。此二週日に渉る盟休は職工側の無條件降伏を以て結局必對會社懸引應答亦常套の域を出でず、若し罷工を見るに勝敗と手段とを以てすべしとせば型の如き慘敗の一語に盡くべけんも、思想界の激動は漸く労働不安の輪廓を描き出さんとせる今日、罷工の内面に浸潤たりし思潮と此罷工のために紡織労働組合と其母體たる友愛會が受けたる影響の甚しく深かりしとを考察するの徒爾ならざるものあり、乃ち此の罷工の真相を録し併せて現在組合運動の外相とその心理とを明にせんとするものなり。

友愛會が東京市及び府下に於ける勢力如何は、富士紡罷工の前記に於て究むべき第一の要點たり、芝園橋畔の同會本部内なる關東出張所（主任、理事棚橋小虎氏）に屬する組合及聯合會、支部を見れば、（第二回附録参照）勢威昂れるが如きも内容點檢の仔細ならんか、同會の東京に於ける二大支柱は、江東に於ける富士瓦斯紡績押上工場を中心とし、三田土ゴムと東京モスリンを兩翼とする一根據